

(仮称) 福井市新ごみ処理施設整備・運営事業

審査講評

令和4年1月

福井市新ごみ処理施設PFI等選定委員会



## 第1 事業の概要

### 1. 事業名称

(仮称) 福井市新ごみ処理施設整備・運営事業

### 2. 本事業の対象となる公共施設等の概要

名称：(仮称) 新ごみ処理施設	
建設予定地：福井県福井市寮町50字外 (入札説明書添付資料-1 事業実施場所 を参照)	
事業実施区域面積：約56,000m <sup>2</sup> 現施設敷地の西側隣接地を造成(別発注)	
工場棟	1) 処理方式：焼却ストーカ方式 2) 施設規模：265 t/日 (132.5 t/日×2炉 1日あたり24時間) 5.5 t/5h (可燃性粗大ごみ破碎機) 3) 処理対象物 ア 可燃ごみ イ 可燃性粗大ごみ ウ 災害廃棄物(緊急時) 4) 発電設備：設置あり
関連施設	計量棟、洗車場、余熱利用設備、駐車場、構内通路、植栽、門扉等

### 3. 事業期間

事業期間は次のとおりとする。

1) 設計・建設期間 : 特定事業契約締結日から令和8年3月31日まで

2) 運営期間 : 令和8年4月1日から令和28年3月31日まで(20年間)

### 4. 事業方式

(仮称) 福井市新ごみ処理施設整備・運営事業(以下、「本事業」という)における施設の整備・運営はDB0方式により実施する。

落札者は、建設事業者として本施設の建設業務を行う。

さらに、落札者は、特別目的会社を設立する。当該特別目的会社は20年間の運営期間にわたって、本施設の運営業務を実施する。

### 5. 本事業の対象となる業務範囲

落札者が行う本事業の範囲は次のとおりとする。

- ・本施設の設計に関する業務
- ・本施設の建設に関する業務
- ・本施設の運営に関する業務

## 第2 審査方法等

### 1. 入札の方法

本事業では、入札手続きに参加する応募者が、本事業の入札公告に際して配布した入札説明書等に示す参加資格要件を満たしており、かつ応募者の提案内容が、技術的観点等から福井市の要求水準を満足したことを確認したうえで、落札候補者を決定した。

なお、落札者の選定にあたっては、公平性、透明性を確保する観点から、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2に規定する、総合評価一般競争入札方式により実施し、価格及び非価格要素（性能、機能、技術等）によって落札候補者を決定した。

### 2. 落札候補者決定までの経過

落札候補者の決定までの経過は次に示すとおり実施した。

内 容	日 程
① 入札公告及び入札説明書等の公表	令和3年7月1日
② 現地視察受付期限	令和3年7月8日
③ 現地視察	令和3年7月13日～16日
④ 入札説明書等（参加資格関係）に関する質問受付期限	令和3年7月15日
⑤ 入札説明書等（その他）に関する質問受付期限	令和3年7月21日
⑥ 参加資格関係に関する質問回答の公表	令和3年7月30日
⑦ その他に関する質問回答の公表	令和3年8月13日
⑧ 入札参加資格審査書類受付期限	令和3年8月18日
⑨ 入札参加資格審査結果通知	令和3年8月24日
⑩ 質問回答及び提案事項に関する確認事項の受付期限	令和3年8月25日
⑪ 対面的対話	令和3年9月17日
⑫ 対面的対話の回答公表	令和3年9月30日
⑬ 事業提案書の受付期限	令和3年11月12日
⑭ 基礎審査結果通知	令和3年11月30日
⑮ 応募者ヒアリングの実施、開札	令和3年12月25日
⑯ 落札候補者の決定	令和4年1月13日

### 3. 福井市新ごみ処理施設 PFI 等選定委員会の設置

提案書の非価格要素審査は、公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者を含む次に示す7名の委員で構成される福井市新ごみ処理施設PFI等選定委員会（以下「選定委員会」という。）により実施した。

氏名	所属	選出区分
奥村 充司	福井工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授	1号委員 学識経験者や専門的 知識を有する者
桑原 美香	福井県立大学 経済学部 准教授	
坪内 彰	福井大学 医学部 非常勤講師	
濱田 雅巳	公益社団法人全国都市清掃会議 技術部長	
吉田 修二(令和2年度) 塚谷 朋美(令和3年度)※	福井市総務部 部長	2号委員 総務部長
村田 雅俊(令和2年度) 田口 春彦(令和3年度)※	福井市財政部 部長	3号委員 財政部長
牧野 浩(令和2年度) 廣瀬 峰雄(令和3年度)※	福井市市民生活部 部長	4号委員 当該PFI等事業を所 管する部等の長

※市職員の人事異動による

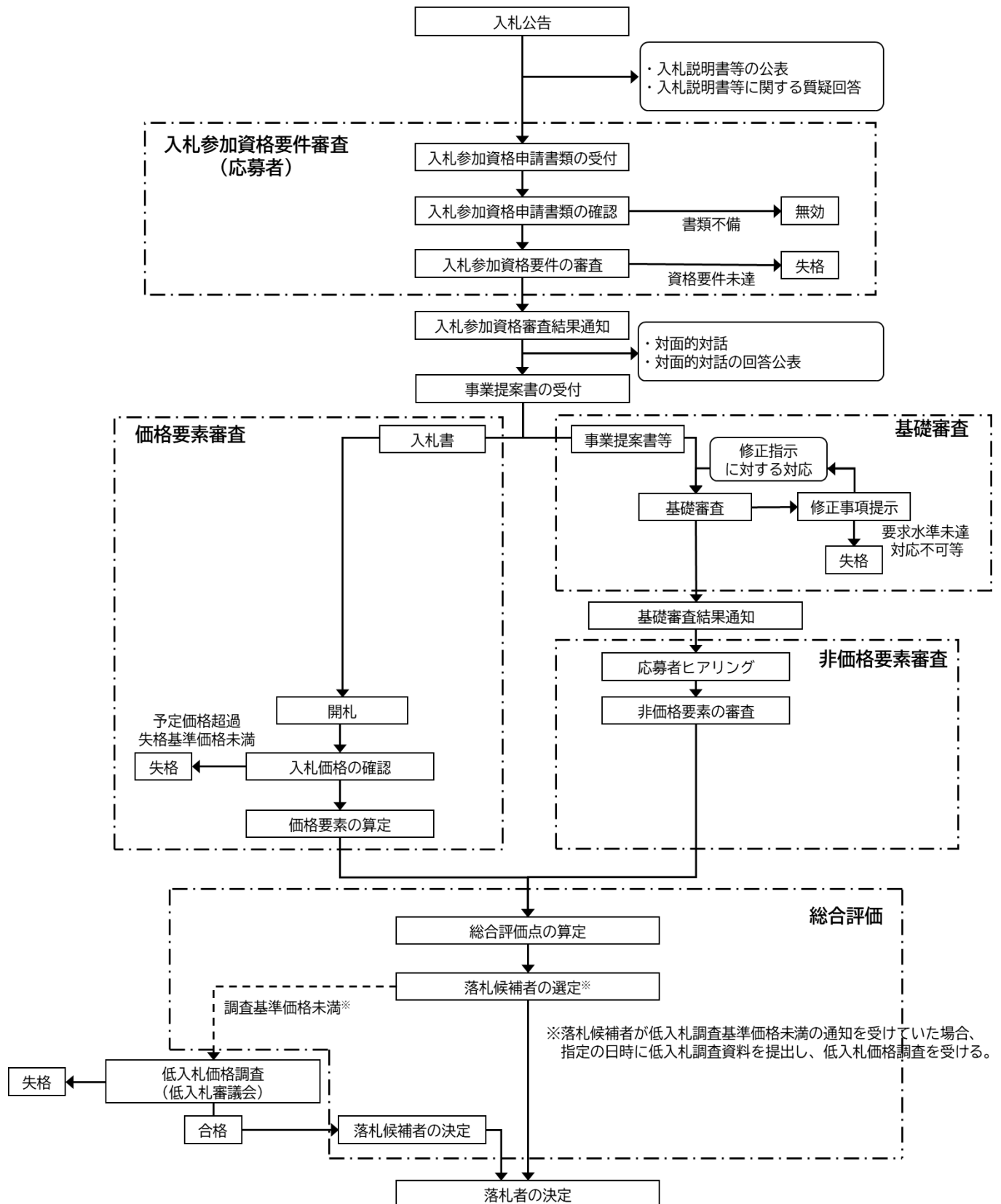
#### 4. 選定委員会の開催経過

本事業における選定委員会の開催経過は次のとおりである。

日程		主な審議事項
第1回	令和2年 11月5日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長及び副委員長の互選</li> <li>・事業者選定のスケジュールについて</li> <li>・計画ごみ量及び施設規模、計画ごみ質について</li> <li>・実施方針(案)について</li> <li>・見積依頼先及び見積事項について</li> </ul>
第2回	令和2年 12月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画ごみ質について</li> <li>・実施方針について</li> <li>・落札者の選定について</li> <li>・要求水準書(案)について</li> </ul>
第3回	令和3年 4月9日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者選定スケジュールの変更について</li> <li>・実施方針に対する質問・回答の報告</li> <li>・入札公告資料(案)について</li> </ul>
第4回	令和3年 5月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入札公告資料(案)について</li> <li>・特定事業の選定について</li> </ul>
第5回	令和3年 8月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入札説明書等に関する質問・回答の報告</li> <li>・入札参加審査結果の報告</li> <li>・対面的対話について</li> </ul>
第6回	令和3年 9月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面的対話</li> </ul>
第7回	令和3年 12月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業提案書に対する基礎審査結果の報告</li> <li>・第8回選定委員会(応募者ヒアリング・開札)について</li> <li>・事業提案書に対する仮評価及び質問事項について</li> </ul>
第8回	令和3年 12月25日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募者ヒアリング</li> <li>・落札候補者の選定</li> </ul>
	令和4年 1月13日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落札候補者の決定</li> <li>・審査講評</li> </ul>

## 5. 落札者決定の手順

落札者決定の手順については、次のとおりである。



## 6. 審査概要

### 1) 入札参加資格要件審査

入札参加資格要件審査は、入札参加資格申請書類の提出により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを福井市において確認した。

### 2) 提案内容の基礎審査

応募者から提出された技術提案書の内容が、要求水準書に示す要件を満たしていることを確認した。

なお、審査に際して要求水準未達に関する疑義、提案書間の齟齬等に関して、修正事項の提示を行い、応募者から提出された修正回答を確認した。

### 3) 非価格要素の定量化審査

#### ① 提案書の基礎審査

選定委員会は、表1に示す審査項目及び配点に基づき、提案書に記載された内容について、評価を行った。

なお、非価格要素に関する事項の配点は、60点とした。

#### ② 非価格要素点の算定方法

提案を求めている審査項目において、表2に示す5段階評価により評価、点数化を行い、各審査項目の得点については、各委員の項目毎の得点を平均化（小数第3位を四捨五入し小数第2位までとする。）し、各審査項目の得点を合計して、非価格要素点を算定した。

なお、評価は福井市が要求する水準を満たしたうえで、優れた提案に対して評価を行う加点方式であり、選定委員会では、提案書に関するヒアリングを実施し、提案内容の確認等を行ったうえで評価した。

表1 非価格要素の評価項目

大項目	中項目	小項目	配点
事業全般	事業計画	実施方針 実施体制	4
		事業リスク管理	3
環境にやさしい市民に親しまれる施設	周辺環境との調和	景観・デザイン	5
	地域貢献	地域経済への配慮	5
		地元対応	3
循環型社会の形成に寄与する施設	環境への負荷の低減 エネルギー回収	地球温暖化対策 発電効率 エネルギー有効利用等	7
	環境学習機能	環境学習機能	4
	最終処分量	残さの発生量の低減	3
安全で災害に強い施設	安全対策	全体配置計画 受付・搬入管理	4
		施工計画	3
	安定稼働	公害防止	5
		信頼性 事故防止対策等	3
	災害対策	災害発生時の対応 処理継続性の確保	3
		施設の強靱化	3
経済性・効率性に優れた施設	延命化	長寿命化計画の考え方	5
非価格要素点			60

表2 審査基準及び得点化方法

評価	審査基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	要求水準書を満たす程度	配点×0.00



#### 4) 価格要素の定量化審査

提出された入札価格が予定価格を超えていないこと及び失格基準価格を下回っていないことを確認したのち、入札価格について、次に示す得点算定式により得点化した。

なお、価格要素点は、価格要素点（建設費）と価格要素点（運営費）の合計点とし、配点はそれぞれ20点で合計40点とした。

表3 価格要素点の配点

入札価格の項目	配点
設計・建設費	20点
運営・維持管理業務費	20点
合計	40点

○設計・建設費及び運営・維持管理費

価格要素点 = 配点 × (1 - (当該入札価格 / 予定価格)) × (100 / (100 - 失格基準価格の割合(%)))

#### 5) 総合評価点の算出

総合評価の得点は、以下のとおりとした。

【算定式】

当該応募者の総合評価点 = 非価格要素点 + 価格要素点

### 第3 落札候補者の選定結果

#### 1. 入札参加資格確認

令和3年7月1日に入札公告を行い、令和3年8月18日を期限として入札参加資格申請を受け付けたところ、以下の3グループから申請があった。

事務局は入札参加資格の確認を行い、令和3年8月24日に代表企業に対して入札参加資格を有することを書面にて通知した。

なお、選定委員会による審査にあたっては、審査の公平を期すため、提案書等すべての書類において応募者の企業名を伏せ、表4の応募者名で識別して評価を行った。

表4 入札参加確認申請書類提出グループ

応募者名	いちほまれグループ	こしのるびーグループ	みずようかんグループ
グループ名	JFEエンジニアリンググループ	株式会社神鋼環境ソリューショングループ	日立造船グループ
代表企業	JFEエンジニアリング株式会社 大阪支店	株式会社神鋼環境ソリューション 北陸支店	日立造船株式会社 中部支社
構成企業	株式会社新内	神鋼環境メンテナンス株式会社 北陸営業所	Hitz環境サービス株式会社
	JFE環境サービス株式会社		福井環境事業株式会社
協力企業	安藤ハザマ・新内建設工事共同企業体	アサヒテクノフォート株式会社	株式会社熊谷組 福井営業所
		鹿島建設株式会社 北陸支店 福井営業所	坂川建設株式会社
		石黒建設株式会社	

#### 2. 技術提案書の基礎審査

令和3年11月12日を期限として入札参加資格を有する3グループから技術提案書が提出された。

応募者から提出された技術提案書の内容が、要求水準書に示す要件を満たしていることを確認した。なお、審査に際して要求水準未達に関する疑義、提案書間の齟齬等に関して、「基礎審査に係る修正要望」を行い、応募者からの修正回答を確認したうえで、問題ないと判断した。

令和3年11月30日に応募者の代表企業に対して基礎審査を通過したことを書面にて通知した。

#### 3. 非価格要素の定量化審査

令和3年12月25日に、選定委員会において、非価格要素の定量化審査を行った。審査に際しては、提案書に関する応募者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

審査結果は表5に、非価格要素の各審査項目についての講評は表6に示すとおりである。

表5 非価格要素の定量化審査結果

審査項目			配点	グループ		
大項目	中項目	小項目		いちほまれ	こしのるびー	みずようかん
事業全般	事業計画	実施方針 実施体制	4	2.57	2.86	2.43
		事業リスク管理	3	1.93	2.46	1.93
環境にやさしい市民に親しまれる施設 循環型社会の形成に寄与する施設	周辺環境との調和	景観・デザイン	5	3.75	3.75	3.57
	地域貢献	地域経済への配慮	5	4.29	4.29	3.39
		地元対応	3	2.14	2.36	2.14
	環境への負荷の低減 エネルギー回収	地球温暖化対策 発電効率 エネルギー有効利用等	7	5.75	5.00	5.25
	環境学習機能	環境学習機能	4	2.29	3.00	2.57
	最終処分量	残さの発生量の低減	3	2.14	2.25	2.36
安全で災害に強い施設	安全対策	全体配置計画 受付・搬入管理	4	2.57	3.00	3.00
		施工計画	3	2.04	2.14	1.93
	安定稼働	公害防止	5	3.75	3.21	3.57
		信頼性 事故防止対策等	3	2.04	2.14	2.04
	災害対策	災害発生時の対応 処理継続性の確保	3	2.04	2.04	1.82
		施設の強靱化	3	2.04	2.04	2.04
経済性・効率性に優れた施設	延命化	長寿命化計画の考え方	5	3.57	4.11	3.39
非価格要素点			60	42.91	44.65	41.43

表6① 非価格要素に関する事項の講評

大項目	中項目	小項目	講評
事業全般	事業計画	実施方針 実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、『「おとましい」を「行動」へ』と移すための本事業の実施方針について理解するとともに、業務品質を向上させる研修体制等について具体的な提案がなされていた。</li> <li>こしのるびグループについては、施設の安定稼働に向け充実した現地の人員体制やバックアップ体制等について評価した。</li> </ul>
		事業リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、具体的なリスク管理体制、SPC に対する財政支援策、セルフモニタリング方法について提案がなされていた。</li> <li>こしのるびグループについては、各種リスクの管理手法を詳細に示した提案を高く評価した。</li> </ul>
環境にやさしい市民に親しまれる施設	周辺環境との調和	景観・デザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、周辺の景観や自然環境と調和した施設のデザインや地元住民等からの意見の取り入れ方法等について提案がなされていた。</li> </ul>
	地域貢献	地域経済への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、地元企業への発注の確保や地元人材の活用等、地域経済に配慮した提案がなされていた。</li> <li>いちほまれグループ及びこしのるびグループについては、地元企業への発注額等、地元経済への貢献度を評価した。</li> </ul>
		地元対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、具体的な施設の運転状況等の情報発信や東山健康運動公園への熱供給について、確実に具体的な提案がなされていた。</li> <li>こしのるびグループについては、さらなる東山健康運動公園との連携による情報発信の提案を評価した。</li> </ul>
	環境への負荷の低減 エネルギー回収	地球温暖化対策 発電効率 エネルギー有効利用等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、最新技術の導入やこれまでの経験を活かし、省エネルギー化、エネルギーの有効利用方法について優れた提案がなされていた。</li> <li>いちほまれグループについては、年間売電量や温室効果ガス削減量等の提案を評価した。</li> </ul>
循環型社会の形成に寄与する施設	環境学習機能	環境学習機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、具体的で実践的な環境学習ツールの工夫や展示物の陳腐化対策等について提案がなされていた。</li> <li>こしのるびグループについては、見学者の動線に関する提案を高く評価した。</li> </ul>
	最終処分量	残さの発生量の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、資源化可能物の回収や薬品使用量の削減、あるいは新技術の導入等により残さ量の低減に向けた優れた提案がなされていた。</li> <li>みずようかんグループについては、将来の資源化に向けた提案を評価した。</li> </ul>

表6② 非価格要素に関する事項の講評

大項目	中項目	小項目	講評
安全で災害に強い施設	安全対策	全体配置計画 受付・搬入管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、待車スペース等の確保により、一般持込車両や収集運搬車両の作業性に配慮した動線であるとともに、効率的な受入・チェック体制等について提案がなされていた。</li> <li>こしのるびグループについては、IT技術を活用した受入方式の提案を評価した。</li> <li>みずようかんグループについては、一般持込車両と収集運搬車両及び来場者の動線分離の提案を評価した。</li> </ul>
		施工計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、工事中の安全確保や東山健康運動公園の運営に配慮した優れた提案がなされていた。</li> <li>こしのるびグループについては、車両や資機材の一元管理や関係車両等の安全確保策の提案を評価した。</li> </ul>
	安定稼働	公害防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、AI等の最新技術を導入した焼却炉等の制御装置を導入しており、安定した運転が期待できる提案がなされていた。</li> <li>いちほまれグループについては、余裕を持った装置設計と運転管理基準値の設定等の提案を評価した。</li> </ul>
		信頼性 事故防止対策等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、過去のトラブル対応の実績を踏まえ、ハード・ソフト両面における具体的な提案がなされていた。</li> </ul>
	災害対策	災害発生時の対応 処理継続性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、災害発生時の具体的な事業継続計画に基づく施設稼働の確保策とあわせて、各グループそれぞれが独自の支援策等について提案がなされていた。</li> <li>いちほまれグループ及びこしのるびグループについては、災害発生時の福井市への貢献に関する提案を評価した。</li> </ul>
		施設の強靱化	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、具体的な施設の強靱化対策とともに、具体的な安全停止、再稼働システムについて提案がなされていた。また、具体的な寒冷地、積雪対策も示されていた。</li> </ul>
経済性・効率性に優れた施設	延命化	長寿命化計画の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループとも、35年間以上の施設稼働を踏まえた具体的な長寿命化対策、修繕による延命化方法について提案がなされていた。</li> <li>こしのるびグループについては、運営終了後の補修・整備の軽減と安定稼働の確保の提案を高く評価した。</li> </ul>

#### 4. 入札価格の定量化審査

提案書を提出した応募者の立会いのもとで令和3年12月25日に開札を行い、各入札参加者の入札価格が予定価格の範囲内であることを確認した。

開札結果から、入札価格の定量化審査に関する得点化を行った。得点化の結果は、表6に示すとおりである。

表6 入札価格の定量化審査結果

(円)

項目	配点	グループ名		
		いちほまれ	こしのるびー	みずようかん
入札価格（税抜）	—	29,408,000,000	29,406,917,000	29,407,000,000
入札価格 （設計・建設費）	—	20,739,000,000	20,738,117,000	20,738,200,000
価格要素点 （設計・建設費）	20	19.55	19.56	19.55
入札価格 （運営・維持管理業務費）	—	8,669,000,000	8,668,800,000	8,668,800,000
価格要素点 （運営・維持管理業務費）	20	18.84	18.84	18.84
価格要素点	40	38.39	38.40	38.39

なお、予定価格、失格基準価格及び低入札価格調査の調査基準価格については表7に示すとおりである。

表7 予定価格、失格基準価格及び調査基準価格

予定価格（税込）	43,008,900,000円
入札書比較価格（税抜）	39,099,000,000円
入札書比較価格（設計・建設費）（税抜）	26,499,000,000円
失格基準価格（税抜）	20,607,033,000円
調査基準価格（税抜）	23,961,667,000円
入札書比較価格（運営・維持管理業務費）（税抜）	12,600,000,000円
失格基準価格（税抜）	8,426,799,000円
調査基準価格（税抜）	9,798,604,000円

## 5. 総合評価点の算出

「非価格要素の定量化審査の得点」、「入札価格の定量化審査の得点」を加算し、表8に示すとおり、総合評価点を算出した。

表8 総合評価点の算出結果

項目	配点	グループ		
		いちほまれ	こしのるびー	みずようかん
応募者グループ名		JFEエンジニアリンググループ	株式会社神鋼環境ソリューショングループ	日立造船グループ
代表企業		JFEエンジニアリング株式会社 大阪支店	株式会社神鋼環境ソリューション 北陸支店	日立造船株式会社 中部支社
非価格要素点	60	42.91	44.65	41.43
価格要素点	40	38.39	38.40	38.39
総合評価点	100	81.30	83.05	79.82
落札候補者			○	

## 6. 落札候補者の選定

選定委員会は、上記の結果に基づき「こしのるびーグループ」（代表企業：株式会社神鋼環境ソリューション 北陸支店）を落札候補者として選定した。

## 7. 低入札価格調査

落札候補者に選定されたこしのるびーグループは、設計・建設費及び運営・維持管理業務費が調査基準価格を下回っていたため、低入札価格調査実施要綱に基づく低入札価格調査を実施した。

調査した結果、株式会社神鋼環境ソリューショングループへのヒアリング、関係資料等の確認から応札額での事業実施は可能であると判断し、認めた。

#### 第4 総評

本事業は、福井市の燃やせるごみ等を35年以上にわたり安定して処理するための新ごみ処理施設を整備し、運営していくことを最も重要な目的としており、本事業を行ううえで、以下の4つの施設整備基本方針を掲げている。

- ・環境にやさしい市民に親しまれる施設
- ・循環型社会の形成に寄与する施設
- ・安全で災害に強い施設
- ・経済性・効率性に優れた施設

上記に示した施設整備基本方針を踏まえ、本事業は民間事業者の経営能力及び技術的能力を活用することにより、効率的かつ効果的な設計・施工及び運営・維持管理を期待し、施設の設計・建設及び運営・維持管理を一括して発注するDBO方式を採用した。

選定委員会では、施設整備基本方針に基づき、選定基準及び選定方法等を定め、落札候補者選定のための審査を実施した。

今回、入札に参加した3グループの提案は、いずれも本事業の抱える特性を的確に捉えたうえで、本事業の有する課題に対応するための創意工夫がなされ、いずれも各グループの過去の実績や経験に基づく魅力的なものであり、各グループの真摯な対応に感謝するものである。

落札者選定基準書に基づき、提案書及び入札価格に対して厳正なる審査を行った結果、株式会社神鋼環境ソリューション北陸支店を代表企業とする、こしのるびグループを落札候補者として選定した。

こしのるびグループの提案は、福井市が期待する創意工夫と経済性を両立していると評価したものであり、特に「事業リスク管理」「環境学習機能」「長寿命化計画の考え方」について、高く評価した。

一方で選定委員会から以下に示す要望事項も挙げられた。

##### ○要望事項

- ①事業期間を通じて、要求水準事項に基づく提案計画を確実に履行すること。また、今後の設計、施工及び運営維持管理にあたっては、福井市と十分に協議し、提案書の確実な履行を図ること。
- ②実施設計にあたっては、諸条件の設定について精査し、福井市と十分に協議し、特に施設内の安全の確保については十分に配慮すること。
- ③福井市が別に実施する造成工事との条件を整理したうえで、施工計画を立案し、工期を遵守するとともに、安全に配慮した施工に努めること。
- ④環境負荷の低減を目指して適切な運転管理と維持管理に努めるとともに、排ガス等に対するの公害対策に万全を期すること。特に水銀対策については実績等に基づき十分な対策を図ること。
- ⑤地域貢献・環境学習を通じて、福井市のカーボンニュートラル実現を見据えながらの更なる発展及び将来の福井市を担う子供たちの育成を福井市と協力して進めること。
- ⑥事業期間を通じて、地元雇用と地元企業の活用提案を確実に実現するとともに、更なる拡大に努めること。
- ⑦高度なエネルギー回収技術を基に、提案されたエネルギー回収及び有効利用計画を確実に行い、福井市のゼロカーボンシティ施策の推進に貢献すること。
- ⑧福井市民、特に地元住民との信頼関係の構築に努めることが重要であることから、情報の発信や公開の具体的手法とともに、地元住民等からの意見の聴取方法やその意見に対する対応方法について、福井市と十分に協議し、進めること。
- ⑨災害時のごみ処理について福井市に協力し、最大限の対応に努めること。



こしのるびグループは、本事業をより良いものとするため、上記の要望事項について、真摯な対応に努めてもらいたい。

さらに、事業期間を通じて誠意をもって各業務を行い、福井市と協働して地域との信頼関係を築きながら、本事業を円滑に推進し、福井市の安定したごみ処理に寄与することを期待する。

福井市新ごみ処理施設PFI等選定委員会  
委員長 奥村 充司